

平成25年2月6日(水)岩手日報  
 ※この記事・写真は岩手日報社の許諾を得て転載しています。

# エネの今 関心高く



生徒と対話形式で授業を進める東嶋和子さん(右)

## 花北青雲高 東嶋さん(科学ジャーナリスト)授業

花巻市石鳥谷町の花北青雲高(遠藤敏夫校長、生徒468人)は5日、同校で2年生を対象にエネルギーに関する出前授業を開き、原子力委員会専門委員などを務める科学ジャーナリストの東嶋和子さんが講演した。

生徒約160人が参加。東嶋さんは「一緒に考えよう! エネルギー

ーのこと 環境のこと」と題し、エネルギー自給率4%(原子力を除く)という日本の現状を説明。その上で「太陽光や風力は人が思った通りに発電できず、蓄電もコスト高で性能がいまいち。火力で賄うなどバックアップを持たなければならぬ」と説いた。

生徒は放射線測定器で校舎や玄関の線量を

測定し、年間被ばく量を算出。東嶋さんは「気象や場所などの条件で線量は変わる。自分たちで測り、物差しを得ることが大切」と強調した。

外嶋里紗さんは「放射線量が水の近くは低く地面の近くは高いことを初めて知った。自分でいろいろな情報を得ていきたい」と勉強になった様子だった。